

明星の御婆さん おんば —明星—

明星てんしんじ転輪寺の東南百メートルの林の中へ入って行くと、三体の石像が祭っております。

正面に御婆さん、右に庚申像こうしんぞう、左に行者の像と、三角形にして並んでいます。

これらの石像は、人々の苦しい生活が育てた祈りの結晶であり、こないわれがあります。



江戸時代の中ごろのこと、くる年もくる年も凶作きようさくが続き、村は食べるものもなく困っておった。

そのころ、村では百日咳ひやくにちせきがはやって、医者に見てもらうにもお金がない。静かに寝ているより仕方がない。

けれども、肺炎を起こしてたくさんの人が死んでしもた。

「一体どうしたらえんのやろ。」と村人が思案に暮れていたところ、ある老人が「十王様を祭ろう、そして祈るんや!」と言って村人たちは十王様を祭った。





現在も地域の信仰を集める御婆さん

咳がでて苦しくなった時は、熱いお茶を飲むと楽になると言っ、十王様にお茶を差し上げた。

すると不思議なことに咳は止まり、百日咳はすっかり治ってしまった。「ありがたいことや。」と言って村人は喜んだ。

しかし、またいつ流行病がでるかもわからんと、今度は明星のはずれにあった庚申像をここへもってきて祭った。

これで、病魔悪鬼と一緒にあっておい払ってくれるだろうということになった。

そこへまた、鈴鹿からある老人が行者の像をおいねてきた。「これは百姓の神さんや、これで豊作になるやろ。」ということで仲良く三体祭った。

そうして、百日咳は治り、病魔悪鬼はおい払われ、豊作となり、すっかり村は明るくなった。

十王様のおかげや、ということでこの土地の名を十王といい、御婆とは、昔はうばぜき、といわれ、そこから御婆になったそうだ。



八月十六日のお盆には、転輪寺の住職さんがここでご供養して下さいますが、いまでもお詣りの方がみえて御堂には真新しいよだれかけ。が奉納されています。

キーワード：みんわ、明星、御婆さん、転輪寺